日刊建設通信新聞（2026 年 11 月 12 日付 3 面掲載）

【オリコンサル支援ツールを開発　生活道路　中央線有無 AI 判定】

生活道路
中央線有無AI判定
オリコンサル支援ツールを開発



中央線判定ツール

オリエンタルコンサルタンツは、宮川興業（東京都渋谷区、宮川訓社長）の協力を得て、生活道路の中央線の有無をデータ化する支援ツールを開発した。スマートフォンで道路の静止画像を収集し、AI（人工知能）で中央線の有無を判定する。交通事故対策が必要な箇所の抽出や道路状況の整理、事故発生状況や地域住民からの要望箇所と道路情報を重ね合わせた対策箇所の選定での活用を想定する。

開発したのは「中央線調査ツール」と「中央線判定ツール」。調査ツールは、専用アプリを搭載したスマートフォンを車両のフロントガラスに設置して走行し、路面の静止画像を一定距離間隔で収集する。画像にはGPS（全地球測位システム）情報を統合し、サーバーへのアップロードやパソコンへの取り込みにも対応する。判定ツールは、画像をAIで解析し、中央線の有無を自動判定。結果はビューワー上で確認・修正でき、CSVやKMLファイルへの出力にも対応する。

9月1日から、中央線や車両通行帯が設けられていない一般道路を中心に、自動車の法定速度が時速30㌔に引き下げられた。一方、市区町村などが管理する中央線のない道路は、位置や長さのデータ化が十分でないという課題がある。

ツールは、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究開発テーマの一環として、両者の交通安全対策、区画線調査、AI技術を組み合わせて開発した。